

審判研修 道外派遣参加報告書

第44回 全国ミニバスケットボール大会	期間 25年3月28日(木)～ 3月30日(土)
開催地 東京都	会場 国立代々木競技場第1体育館・第2体育館
参加者 長坂文彦	所属地区名 札幌地区
講師 日本バスケットボール協会 中山泰夫氏、吉田正治氏、田中光夫氏、小坂井郁子氏	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など ・プレゲームカンファレンスについて ・二人の協力、自覚 ・日程確認	
実技研修、座学研修等の記録 ○任意のゲームを取り上げた研修ゲームの実施(大会中4ゲーム) ○主任をブロック長と各都道府県から数名割り当て、自主的なゲーム反省会の実施(割り当て3ゲーム) ○日本ミニバスケットボール連盟からのレフリーとしての心構えについて諸注意 ・各都道府県の代表レフリーであることの自覚。 ・大会期間中の会場内でのマナー ・各都道府県代表チームとの関わり方 など(審判規則委員会より)	
実践実技1(実技の数によって増やす) 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
25年3月28日(木)	対戦カード 久米ミニバス(愛媛)vs赤堀ミニバス(群馬)
主審 長坂 文彦	相手審判 荒木 一伸(富山)
ゲーム前のカンファレンス内容 ・オールコートプレイの際、二人の間が開かないよう、リードの位置に気をつけること。 ・手の使い方について十分に配慮をすること。 ・アイコンタクト、二人の協力を十分に意識すること。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 田中光夫氏、渡辺信也(山梨)主任 ・ファウルを吹き上げたものの中から、取り上げるべきもの、プレイを続行させていくものとの今後整理すべき。 ・ポストプレイヤーの足下への意識が弱かった。 ・ゲームコントロールレベルを上げていくためにも、プレイの見極めは今後も続けて研究して欲しい。 ・ファウルの規準の一貫性はどうか。入り口、規準を高めにしていなかったか。	
ゲーム感想 大会初戦であり、相手レフリー選手T.Oそれぞれへの気配りを注意しながらゲームに入った。気にしすぎて試合続行が遅れてしまった場面があったので、迅速な対応を今一度見直していきたい。ファウルについては、部分部分で見極めていたことが多かったので、田中氏のアドバイスのように、取り上げるべきものとそうでないもの見極めを、一ゲーム通してもっとできるようにしていきたいと思った。相手レフリーが少々緊張ぎみであったので、カンファレンスを通してコミュニケーションをとりながらレフリーできたので、その点については良かった。	

実践実技2

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

25年3月29日（金）

対戦カード 高崎中川ミニバス(群馬)vs八郷女子ミニバス(三重)

主審 長坂 文彦

相手審判 七種 徹(徳島)

ゲーム前のカンファレンス内容

- ・1番エリアのプレイの見方について、トレイル、リードともによりよい位置をしめることができるよう動きを確認。
- ・前日の試合反省をそれぞれが述べ、特に、二人で協力してプレイを見極めることを確認。
- ・女子のゲームであるので、手の使い方についてシリンドーをよく見極めて判定することを確認。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 中山泰夫氏、玉木 真(滋賀)主任

- ・トレイルでは、ボール以外のプレイを追いすぎていないか。
- ・トレイルの位置が少々高めであった。
- ・二人の協力について出来ていない場面が多かったのではないか。
- ・プレイの予測をしながら、1番エリアのプレイを互いに協力して見られるように欲しい。

ゲーム感想

勝ち上がりは決定していたゲームであったが、終始僅差の好ゲームとなった。オフェンスプレイに責任がある場面がいくつかあり、チャージングを取り上げた場面があったが、判定としては良かったと思う。二人の協力という視点では、互いに規準をすりあわせていく必要があったかと思う。また、中山氏のアドバイス通り、1番エリアでの視野の重なりに今後も気をつけていきたいと思った。

実践実技3

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

25年3月30日（土）

対戦カード 宮の原ミニバス(栃木)vs川中島籠球倶楽部(長野)

主審 長坂 文彦

相手審判 藤原 英幸(岩手)

ゲーム前のカンファレンス内容

- ・オールコートでの二人の位置の確認。
- ・3番から4番への引き継ぎの確認。
- ・男子準決勝として、コンセントレーションを高めていきたいという意志の確認。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 藤原明徳(東北ブロック)

- ・このゲームへかける思いが伝わってくるレフリングだった。
- ・その中から、取り上げるべきものとそうでないもの見極めをしていくと良い。
- ・副審、選手、T.Oなどへの気配りが良かった。
- ・ミニバスは、1Qから4Qまで選手が違うので、ファウルの数がそれぞれ違ってきて当然である。従って、片方が多くなったり少なかったりで気にすることはなく、自分と相手レフリーの規準をすりあわせながら一貫性を貫くことが大切である。

ゲーム感想

川中島の勢いが際立つ、準決勝にふさわしい好ゲームとなった。副審とのファウルの規準をすりあわせを試みながら、レフリングしていくことができたのはよかった。先のゲームでも課題となった、取り上げるべきものとそうでないもの見極めについては、今後も課題としていかなければならなく、最も重要なことであると改めて感じることができた。また、準決勝という大きな舞台を経験させてもらい、自分の持てる力をよく発揮できたことは自信になった。しかし、レフリーとして学ばなければならないことは今後も続けて身につけていけるよう、研鑽を積んでいきたいと感じた。

まとめ

全国各地の都道府県を代表するミニのチームが集う大きな舞台を経験させていただきました。ミニバスとしては、プレイの質も高く、好ゲームが数多くありました。また、代々木体育館という大観衆が注目する中でレフリーを行うことができたことは大きな自信と経験に繋がりました。そして、日本協会の講師の方々のご指導を直接受けさせてもらうことができ、普段経験することができないことを学ばせていただいたことに大きな感謝を申し上げます。全国大会では、その日初めて会った人と初めて会話をし、初めてレフリーをする。それは当然のことですが、とても大切なことであり同時に最も難しいことであると改めて感じることができました。プレゲームカンファレンスが改めて大事であり、そこでの確認事項がゲームに多く生かされるようであればならないことも学ぶことができました。今回、3ゲームを割り当ていただき、すべて主審を務めることになりました。副審や選手、T.Oへの気配りも今後も続けていきながら、自分の判定規準の見直しや、取り上げるべきものとそうでないもの見極めを今後も続けていきたいと感じます。この度、全国大会という大きな舞台を経験させて頂き、本当に有り難く思っております。